

調査結果の概要

(1) 乳用牛

ア 飼養戸数・頭数

平成20年2月1日現在（以下「平成20年」という。）の全国の乳用牛の飼養戸数は2万4,400戸で、前年に比べて1,000戸（3.9%）減少した。

飼養頭数は153万3,000頭で、前年に比べて5万9,000頭（3.7%）減少した。

この結果、1戸当たりの平均飼養頭数は、前年と同数の63頭となった。

また、乳用牛の状態別（経産牛及び未經産牛）飼養頭数をみると、経産牛は99万8,200頭、未經産牛は53万4,500頭で、前年に比べてそれぞれ1万2,800頭（1.3%）、4万6,300頭（8.0%）減少した。

図1 乳用牛の飼養戸数・頭数の推移

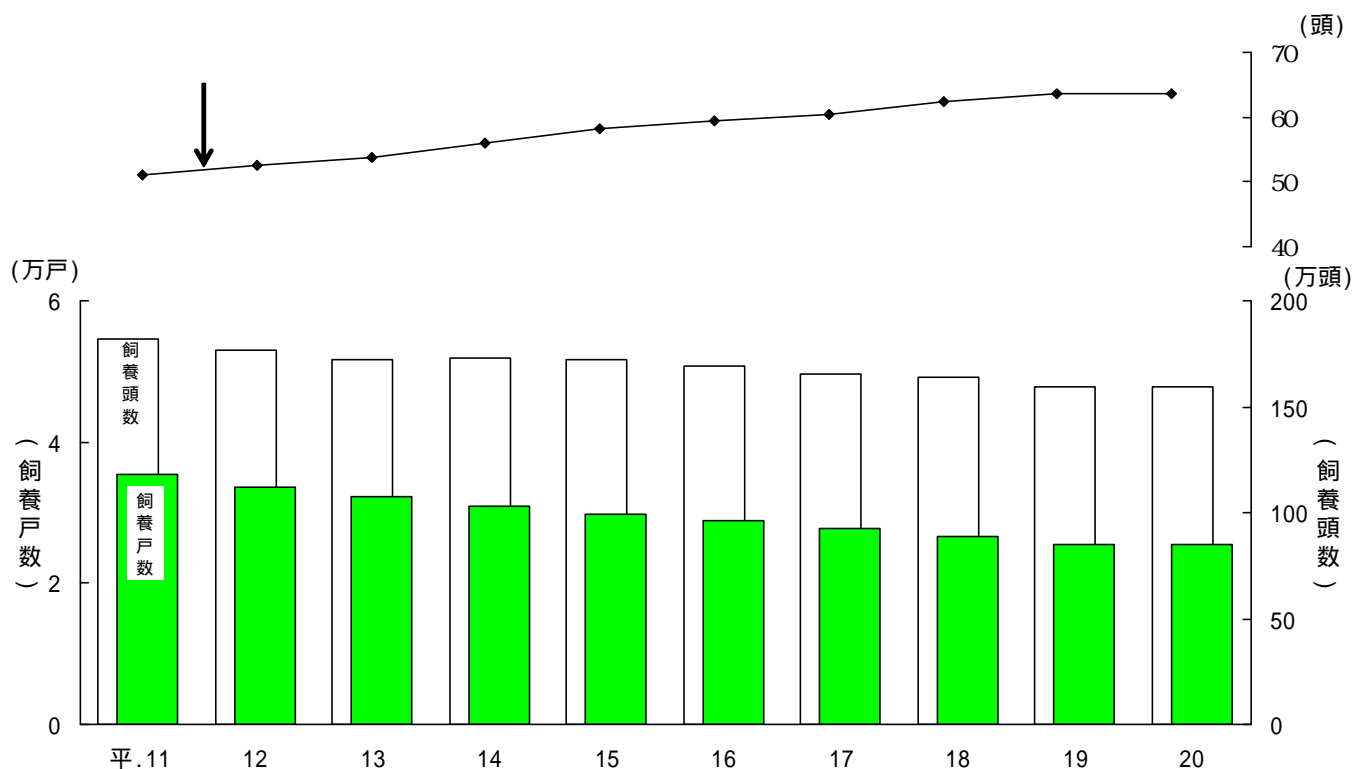


表1 乳用牛の飼養戸数・状態別飼養頭数

区 分		飼養戸数	飼 養 頭 数 (千 頭)					1戸当たり飼養頭数
			計	経 産 牛			未 経 産 牛	
				小 計	搾乳牛	乾乳牛		
戸数・頭数	平. 18	26 600	1 636.0	1 046.0	900.0	146.1	589.8	62
	19	25 400	1 592.0	1 011.0	871.2	140.1	580.8	63
	20	24 400	1 533.0	998.2	861.5	136.7	534.5	63
対前年比 (%)	平. 19	95.5	97.3	96.7	96.8	95.9	98.5	-
	20	96.1	96.3	98.7	98.9	97.6	92.0	-
構成 (%)	平. 18	-	100.0	63.9	55.0	8.9	36.1	-
	19	-	100.0	63.5	54.7	8.8	36.5	-
	20	-	100.0	65.1	56.2	8.9	34.9	-

イ 成畜（満2歳以上の牛）頭数規模別飼養戸数・頭数

乳用牛の飼養戸数・頭数を成畜（満2歳以上の牛）頭数規模別（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。以下、飼養頭数規模別飼養戸数・頭数において同じ。）にみると、飼養戸数は80頭以上の各階層で増加したが、80頭未満の各階層は（1～19頭の階層では大きく）減少した。

また、飼養頭数は、100頭以上の階層で増加したが、それ以外の階層は（1～19頭の階層では大きく）減少した。

なお、100頭以上及び50～79頭の両階層を合わせると、飼養頭数の半数を超える。

図2 乳用牛の成畜頭数規模別飼養戸数・頭数の割合

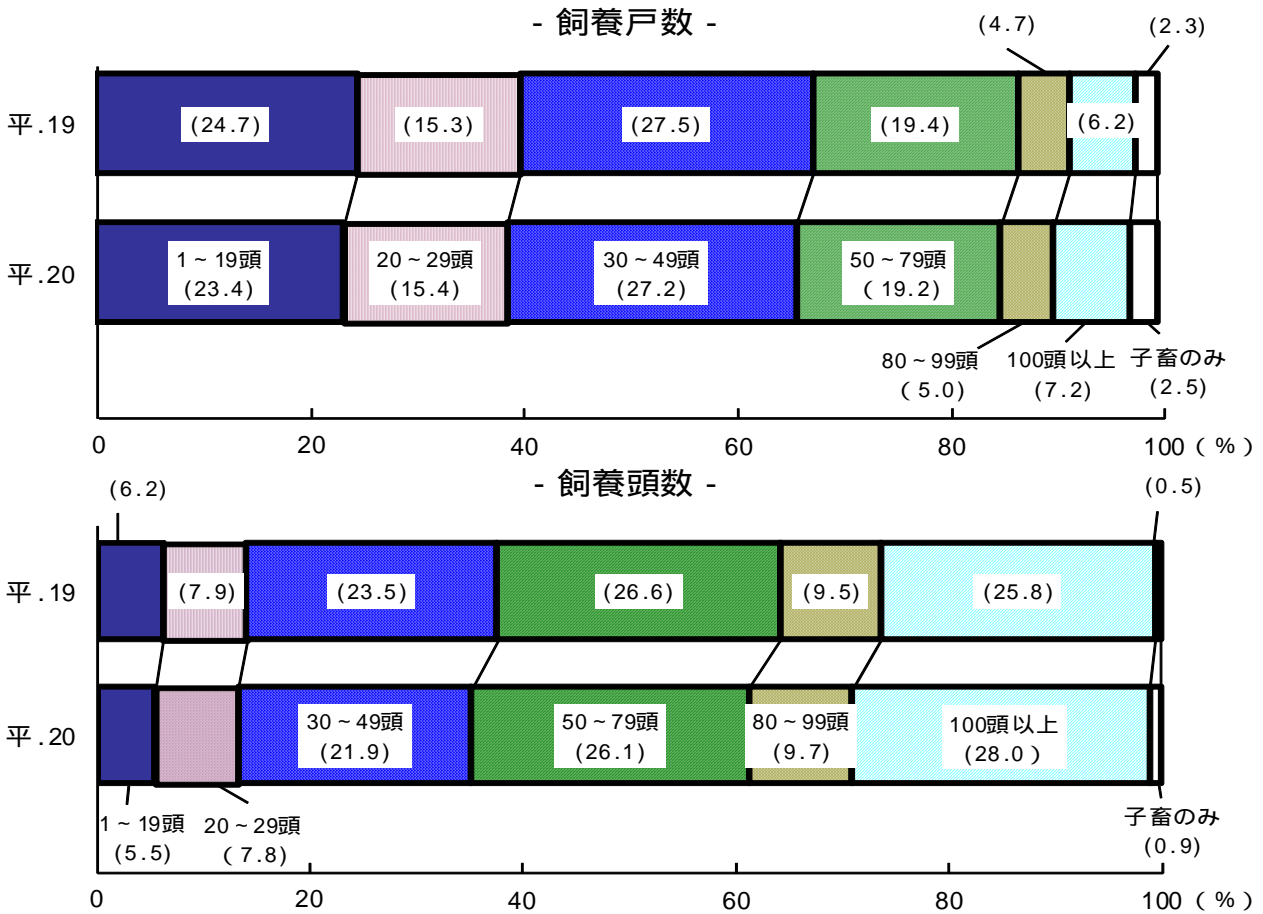


表2 乳用牛の成畜頭数規模別飼養戸数・頭数

区分	計	成畜頭数規模								子畜のみ	
		小計	1～19頭	20～29	30～49	50～79	80～99	100頭以上	うち、300頭以上		
飼養戸数	平. 19	25 100	24 600	1) 6 210	3 850	2) 6 890	4 880	1 180	1 560	...	579
	20	24 100	23 500	5 630	3 720	6 550	4 630	1 200	1 730	153	609
	対前年比(%)	96.0	95.5	1) 90.7	96.6	2) 95.1	94.9	101.7	110.9	...	105.2
飼養頭数	平. 19	1568.0	1561.0	1) 97.8	123.8	2) 368.6	417.7	148.8	404.5	...	7.1
	20	1507.0	1493.0	83.5	118.1	330.1	392.9	145.7	422.7	94.1	14.3
	対前年比(%)	96.1	95.6	1) 85.4	95.4	2) 89.6	94.1	97.9	104.5	...	201.4
	19	1)	10 14	15 19	2)	30 39	40 49				

ウ 乳用牛飼養者の経営耕地面積・飼料作物作付実面積

乳用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）のうち、調査期直前の1年間（平成19年2月～平成20年1月。以下、同じ。）に飼料作物を作付けした戸数は2万1,200戸で、乳用牛飼養者の88.0%となっている。

これを全国農業地域別にみると、北海道及び東北において9割以上の飼養者が飼料作物を作付けしている。

図3 乳用牛飼養者の飼料作物作付戸数割合

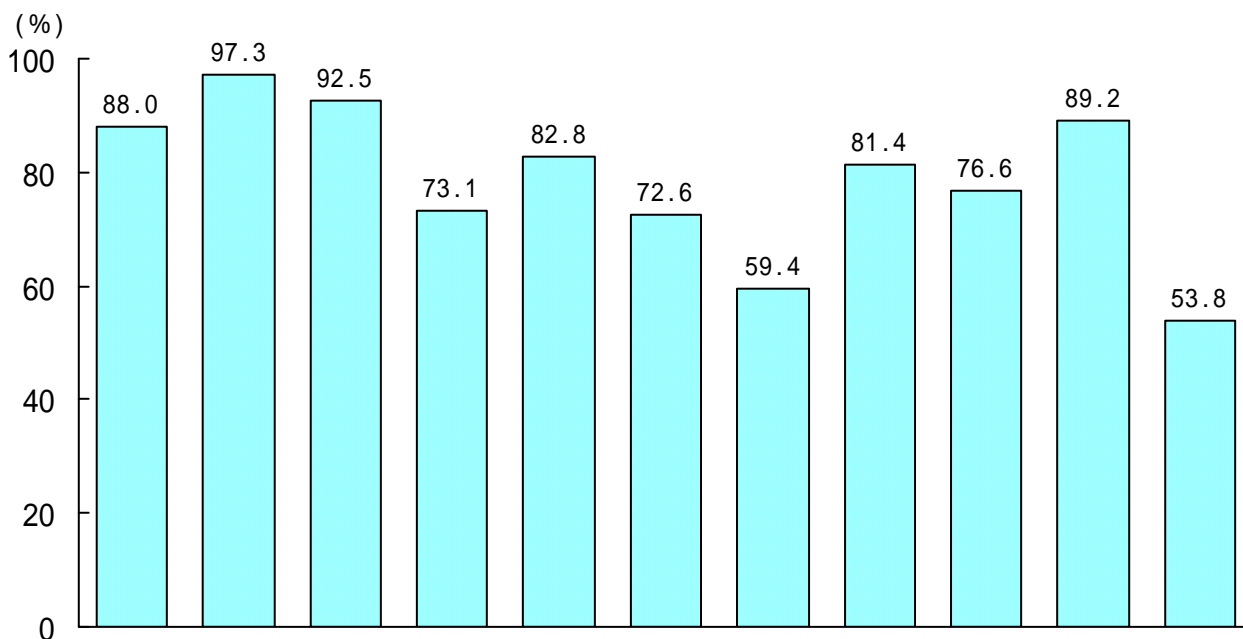


表3 乳用牛飼養者の経営耕地面積・飼料作物作付実面積

区 分	飼養戸数	飼料作物作付戸数	飼料作物作付戸数割合	経営耕地面積	飼料作物作付実面積
	戸	戸	%	ha	ha
全 国	24 100	21 200	88.0	536 900	492 300
北 海 道	8 050	7 830	97.3	449 000	413 700
東 北	3 880	3 590	92.5	36 600	33 100
北 陸	531	388	73.1	2 450	2 140
関 東・東 山	5 060	4 190	82.8	22 700	19 900
東 海	1 170	850	72.6	4 120	3 880
近 畿	942	560	59.4	1 170	920
中 国	1 180	960	81.4	5 540	4 980
四 国	667	511	76.6	1 290	1 180
九 州	2 500	2 230	89.2	13 700	12 400
沖 縄	104	56	53.8	210	210

エ 乳用牛の放牧状況

乳用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）のうち、調査期日前の1年間に乳用牛の放牧を行った戸数は7,260戸で、乳用牛飼養者の30.1%となっている。

これを全国農業地域別にみると、北海道では66.0%の飼養者が放牧を行っており、他の地域を大きく上回っている。

図4 乳用牛飼養者の放牧実施戸数割合

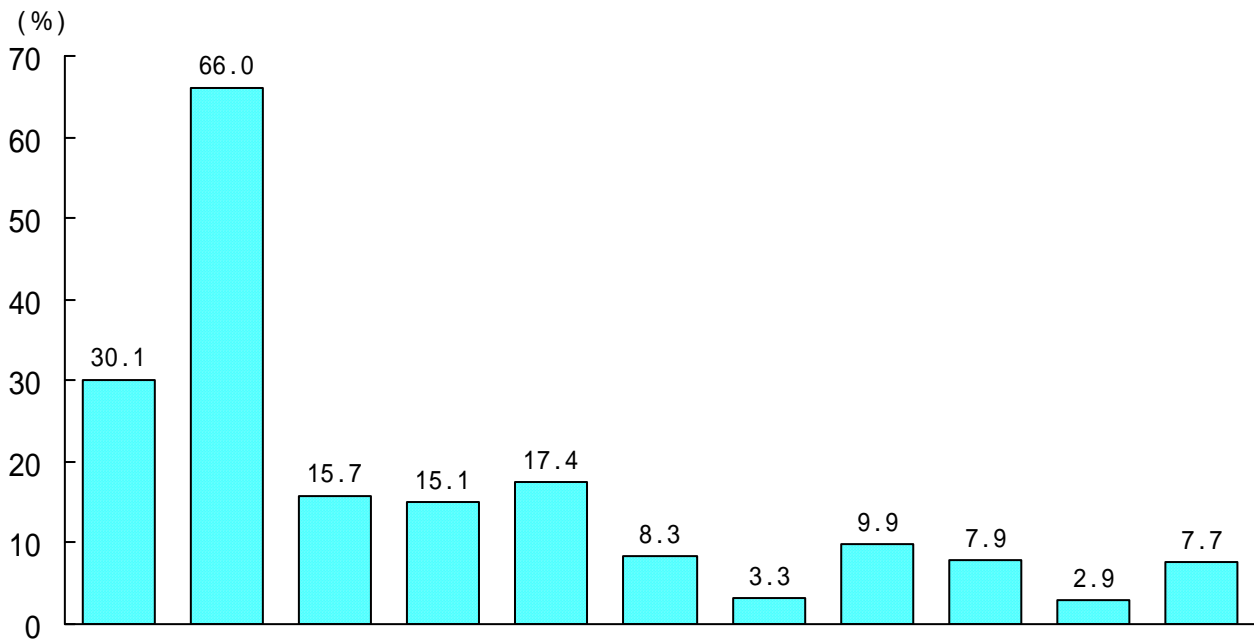


表4 乳用牛の放牧状況

区分	飼養戸数	放牧をしている戸数	放牧実施戸数割合	放牧頭数
	戸	戸	%	頭
全国	24 100	7 260	30.1	311 900
北海道	8 050	5 310	66.0	280 900
東北	3 880	611	15.7	9 170
北陸	531	80	15.1	1 330
関東・東山	5 060	880	17.4	12 630
東海	1 170	97	8.3	2 250
近畿	942	31	3.3	480
中国	1 180	117	9.9	1 530
四国	667	53	7.9	1 220
九州	2 500	73	2.9	x
沖縄	104	8	7.7	210

(2) 肉用牛

ア 飼養戸数・頭数

平成20年の全国の肉用牛の飼養戸数は8万400戸で、前年に比べて1,900戸(2.3%)減少した。飼養頭数は289万頭で、前年に比べて8万4,000頭(3.0%)増加した。

この結果、1戸当たりの平均飼養頭数は、前年より2頭増加して36頭となった。

また、肉用牛の種類別飼養頭数をみると、肉用種は182万3,000頭、乳用種は106万7,000頭で、前年に比べてそれぞれ8万1,000頭(4.6%)、3,000頭(0.3%)増加した。

なお、乳用種のうち、ホルスタイン種他は43万1,600頭で前年に比べて2万8,200頭(6.1%)減少したが、交雑種(F1牛、F1クロス牛)は63万5,700頭で、前年に比べて3万1,700頭(5.2%)増加した。

図5 肉用牛の飼養戸数・頭数の推移

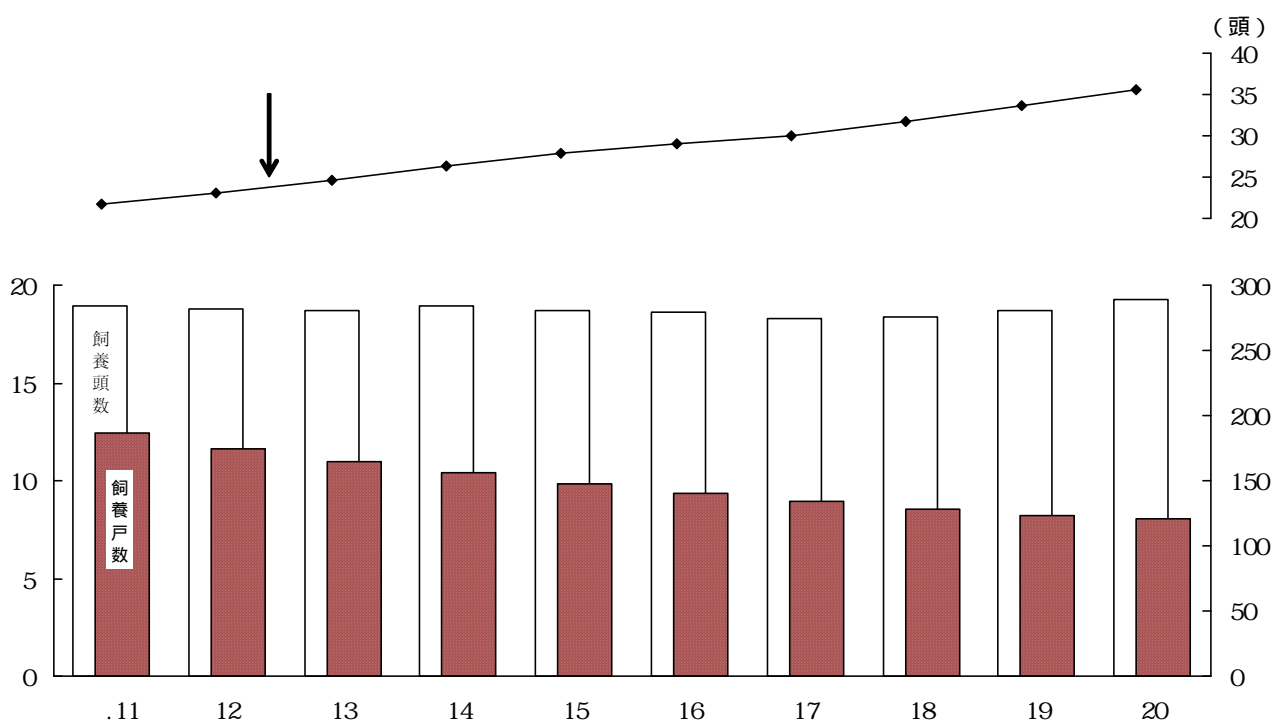


表5 肉用牛の飼養戸数・種類別頭数

区分		飼養戸数	飼 養 頭 数 (千 頭)					1戸当たり飼養頭数	
			計	肉用種	乳 用 種				
小 計	ホルスタイン種他	交雑種							
戸数・頭数	平.	戸						頭	
	18	85 600	2 755.0	1 703.0	1 052.0	468.2	583.8	32	
	19	82 300	2 806.0	1 742.0	1 064.0	459.8	604.0	34	
	20	80 400	2 890.0	1 823.0	1 067.0	431.6	635.7	36	
対前年比 (%)	平.	19	96.1	101.9	102.3	101.1	98.2	103.5	-
	20	97.7	103.0	104.6	100.3	93.9	105.2	-	
構成 (%)	平.	18	-	100.0	61.8	38.2	17.0	21.2	-
	19	-	100.0	62.1	37.9	16.4	21.5	-	
	20	-	100.0	63.1	36.9	14.9	22.0	-	

イ 飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

(ア) 総飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

総飼養頭数規模別にみると、飼養戸数は前年に比べて「10～19頭」の階層で5.8%、「20～49頭」の階層で7.0%、「50～99頭」の階層で3.5%、「200頭以上」の階層で0.4%それぞれ増加したが、それ以外の階層では減少した。

飼養頭数も同様に、「10～19頭」の階層で1.8%、「20～49頭」の階層で0.6%、「50～99頭」の階層で0.7%、「200頭以上」の階層で6.8%それぞれ増加したが、それ以外の階層では減少した。

なお、飼養頭数の半数を占めているのは「200頭以上」の階層である。

図6 肉用牛の総飼養頭数規模別飼養戸数・頭数割合

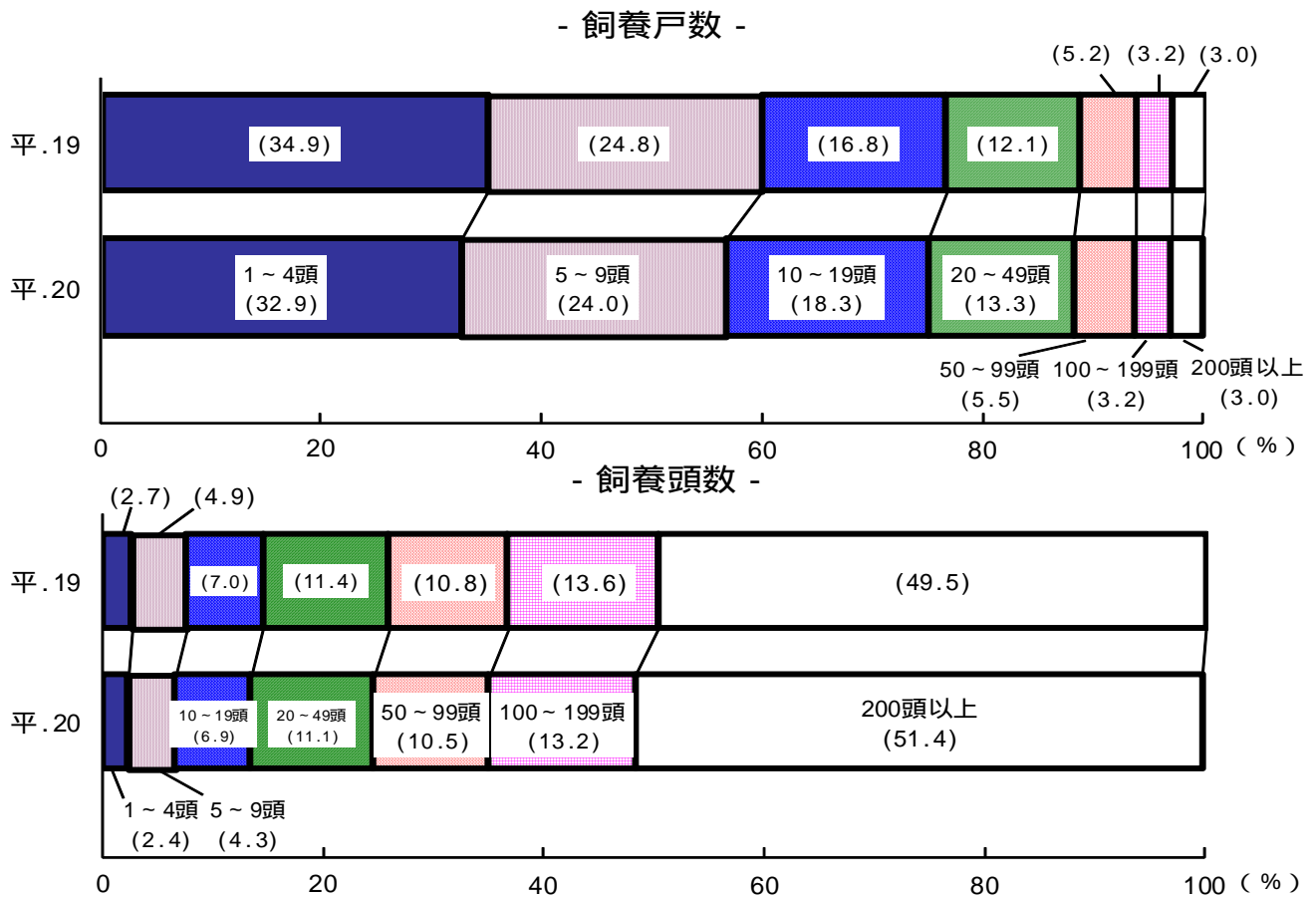


表6 肉用牛の総飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

区分	計	1～4頭	5～9	10～19	20～49	50～99	100～199	200頭以上	うち、 500頭以上
		飼養戸数	戸(戸)	戸	戸	戸	戸	戸	戸
平. 19	82 000	1) 28 600	20 300	13 800	2) 9 910	4 250	2 640	2 420	...
20	80 000	26 300	19 200	14 600	10 600	4 400	2 570	2 430	706
対前年比(%)	97.6	1) 92.0	94.6	105.8	2) 107.0	103.5	97.3	100.4	...
飼養頭数	頭(千頭)	千頭	千頭	千頭	千頭	千頭	千頭	千頭	千頭
平. 19	2 775.0	1) 73.7	136.9	194.8	2) 316.2	299.4	378.7	1 375.0	...
20	2 857.0	68.6	124.1	198.3	318.0	301.4	377.9	1 469.0	918.9
対前年比(%)	103.0	1) 93.1	90.7	101.8	2) 100.6	100.7	99.8	106.8	...

19

1)

2)

20 29

30 49

(イ) 肉用種の目的別飼養頭数別飼養戸数

a 子取り用めす牛

肉用種の子取り用めす牛を飼養している戸数は6万9,700戸で、肉用牛飼養戸数の87.1%となっている。

飼養頭数規模別にみると、「10～19頭」、「20～49頭」、「50～99頭」及び「100頭以上」の階層は前年に比べて増加し、それ以外の階層では減少した。

表7 子取り用めす牛の飼養頭数規模別飼養戸数

区 分		肉用牛の飼養戸数	子 取 り 用 め す 牛 飼 養 頭 数 規 模							子取り用めす牛なし	
			計	1～4頭	5～9	10～19	20～49	50～99	100頭以上		
戸数	平. 19	82 000	71 100	1) 39 200	17 100	8 480	2) 5 030	1 080	308	10 800	
	20	80 000	69 700	36 800	16 500	9 330	5 500	1 170	409	10 300	
対前年比(%)		97.6	98.0	1) 93.9	96.5	110.0	2) 109.3	108.3	132.8	95.4	
構成比(%)	平. 19	100.0	86.7	1) 47.8	20.9	10.3	2) 6.1	1.3	0.4	13.2	
	20	100.0	87.1	46.0	20.6	11.7	6.9	1.5	0.5	12.9	
		19	1)	2) 20 29			30 49				

b 肥育用牛

肉用種の肥育用牛を飼養している戸数は1万1,900戸で、肉用牛飼養戸数の14.9%となっている。

飼養頭数規模別にみると、「50～99頭」及び「200頭以上」の階層は前年に比べて増加し、それ以外の階層では減少した。

表8 肥育用牛の飼養頭数規模別飼養戸数

区 分		肉用牛の飼養戸数	肥 育 用 牛 飼 養 頭 数 規 模								肥育用牛なし	
			計	1～9頭	10～19	20～29	30～49	50～99	100～199	200頭以上		うち、500頭以上
戸数	平. 19	82 000	12 400	1) 5 230	1 430	1 070	1 220	1 500	1 120	786	...	69 600
	20	80 000	11 900	4 830	1 330	965	1 210	1 530	1 110	913	225	68 100
対前年比(%)		97.6	96.0	1) 92.4	93.0	90.2	99.2	102.0	99.1	116.2	...	97.8
構成比(%)	平. 19	100.0	15.1	1) 6.4	1.7	1.3	1.5	1.8	1.4	1.0	...	84.9
	20	100.0	14.9	6.0	1.7	1.2	1.5	1.9	1.4	1.1	0.3	85.1
		19	1)									

(ウ) 乳用種の飼養頭数規模別飼養戸数

肉用の乳用種(乳廃牛は除く。)を飼養している戸数は7,230戸で、肉用牛飼養戸数の9.0%となっている。

飼養頭数規模別にみると、「1～4頭」及び「200頭以上」の階層は前年に比べて増加し、それ以外の階層では減少した。

表9 乳用種の飼養頭数規模別飼養戸数

区 分		肉用牛の飼養戸数	乳 用 種 飼 養 頭 数 規 模							乳用種なし	
			計	1～4頭	5～19	20～49	50～99	100～199	200頭以上		うち、500頭以上
戸数	平. 19	82 000	7 550	1) 2 050	2) 1 580	3) 928	833	924	1 240	...	74 400
	20	80 000	7 230	2 130	1 460	908	670	791	1 270	389	72 800
対前年比(%)		97.6	95.8	1) 103.9	2) 92.4	3) 97.8	80.4	85.6	102.4	...	97.8
構成比(%)	平. 19	100.0	9.2	1) 2.5	2) 1.9	3) 1.1	1.0	1.1	1.5	...	90.7
	20	100.0	9.0	2.7	1.8	1.1	0.8	1.0	1.6	0.5	91.0
		19	1)	2)		10 19	3) 20 29	30 49			

ウ 肉用牛飼養者の経営耕地面積・飼料作物作付面積の状況

肉用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）のうち、調査期日前の1年間に飼料作物を作付けした戸数は6万7,700戸で肉用牛飼養者の84.6%となっている。

これを全国農業地域別にみると、北海道、九州及び沖縄で約9割の飼養者が飼料作物を作付けしている。

図7 肉用牛飼養者の飼料作物作付戸数割合

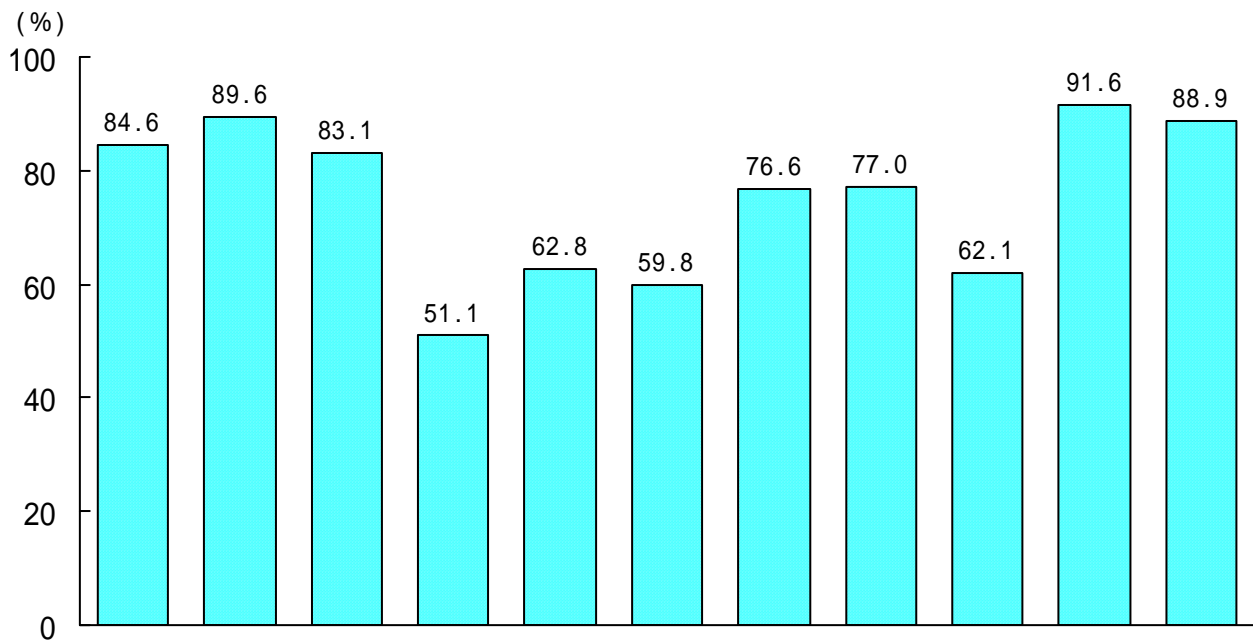


表10 肉用牛飼養者の経営耕地面積・飼料作物作付実面積

区 分	飼養戸数 戸	飼料作物 作付戸数 戸	飼料作物 作付戸数 割 合 %	経営耕地 面 積 ha	飼 料 作 物 作 付 実 面 積 ha
全 国	80 000	67 700	84.6	279 300	197 800
北 海 道	2 990	2 680	89.6	92 700	77 100
東 北	22 500	18 700	83.1	79 100	45 600
北 陸	560	286	51.1	1 790	780
関 東・東 山	4 810	3 020	62.8	13 100	7 370
東 海	1 670	998	59.8	3 360	2 040
近 畿	2 440	1 870	76.6	2 670	1 320
中 国	4 830	3 720	77.0	8 460	4 040
四 国	1 170	727	62.1	1 270	650
九 州	35 900	32 900	91.6	68 200	53 500
沖 縄	3 140	2 790	88.9	8 660	5 340

エ 肉用牛の放牧状況

肉用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）のうち、調査期日前の1年間に肉用牛の放牧を行った戸数は9,570戸で、肉用牛飼養者の12.0%となっている。

これを全国農業地域別にみると、北海道では39.5%の飼養者が放牧を行っており、他の地域を大きく上回っている。

図8 肉用牛飼養者の放牧実施戸数割合

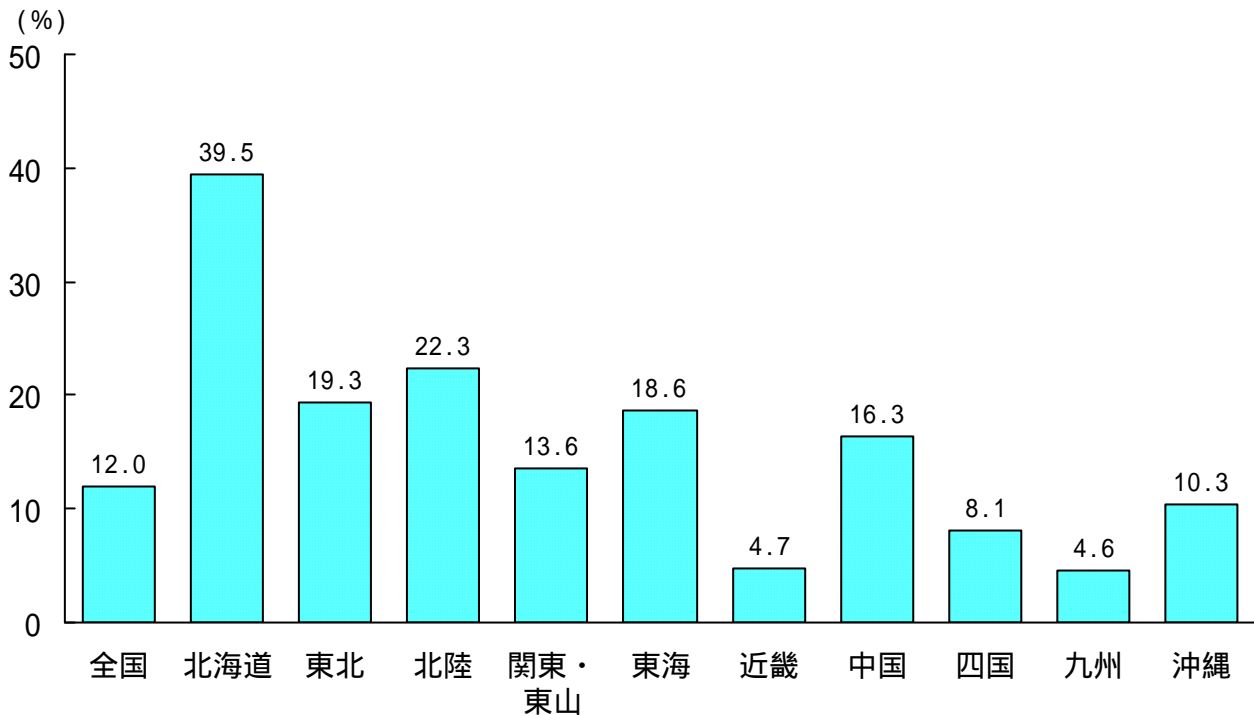


表11 肉用牛の放牧状況

区分	飼養戸数	放牧をしている戸数	放牧実施戸数割合	放牧頭数
	戸	戸	%	頭
全国	80 000	9 570	12.0	134 500
北海道	2 990	1 180	39.5	48 700
東北	22 500	4 340	19.3	33 740
北陸	560	125	22.3	x
関東・東山	4 810	656	13.6	5 970
東海	1 670	310	18.6	3 080
近畿	2 440	114	4.7	x
中国	4 830	788	16.3	8 040
四国	1 170	95	8.1	1 080
九州	35 900	1 650	4.6	23 970
沖縄	3 140	322	10.3	7 600

(3) 豚

ア 飼養戸数・頭数

平成20年の全国の豚の飼養戸数は7,230戸で、前年に比べて320戸(4.2%)減少した。

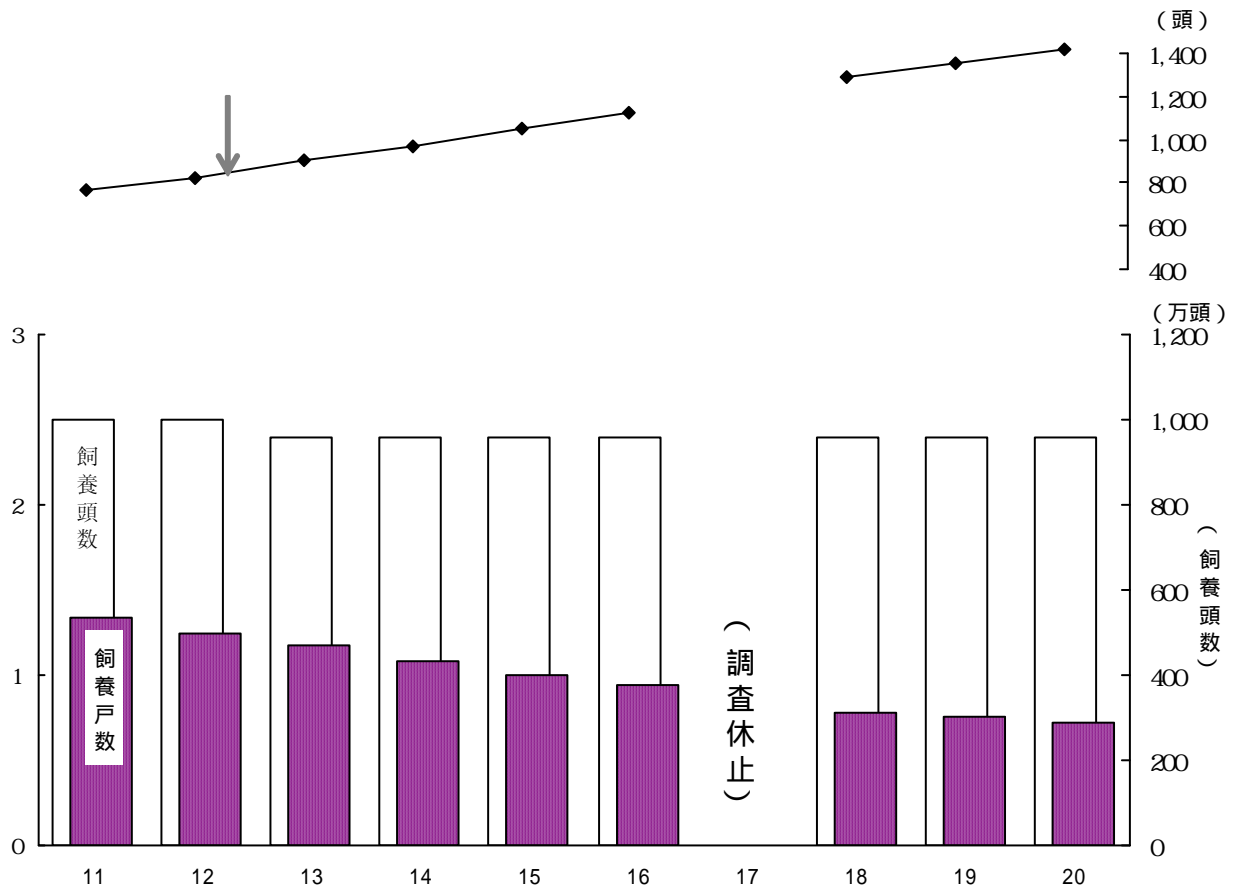
飼養頭数は974万5,000頭で、前年に比べて1万4,000頭(0.1%)減少した。

この結果、1戸当たりの飼養頭数は、前年より55頭増加して1,348頭となった。

また、飼養頭数のうち、子取り用めす豚飼養頭数は91万100頭で前年に比べ4,900頭(0.5%)減少した。

なお、1戸当たり子取り用めす豚飼養頭数は、前年より6頭増加して146頭となった。

図9 豚の飼養戸数・頭数の推移



注：平成17年は「2005年農林業センサス」実施年のため調査を休止した。

表12 豚の飼養戸数・種類別飼養頭数

区分	飼養戸数		飼養頭数(千頭)					1戸当たり飼養頭数	子取り用めす豚	
	子取り用めす豚のいる戸数	計	子取り用めす豚	種おす豚	肥育豚	その他				
戸数・頭数	平 19	7 550	6 560	9 759.0	915.0	58.0	8 119.0	667.1	1 293	140
	20	7 230	6 250	9 745.0	910.1	57.4	8 117.0	660.9	1 348	146
対前年比(%)		95.8	95.3	99.9	99.5	99.0	100.0	99.1	-	-
構成比(%)	平 19	100.0	86.9	100.0	9.4	0.6	83.2	6.8	-	-
	20	100.0	86.4	100.0	9.3	0.6	83.3	6.8	-	-

イ 飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

飼養戸数を肥育豚飼養頭数規模別にみると、前年に比べて「1,000～1,999頭」及び「2,000頭以上」の階層で増加し、「500～999頭」の階層で前年並み、それ以外の階層では減少した。

飼養頭数は前年に比べて「1,000～1,999頭」及び「2,000頭以上」の階層で増加したが、それ以外の階層では減少した。

なお、飼養頭数の約6割を占めているのは「2,000頭以上」の階層である。

図10 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数・頭数割合の推移

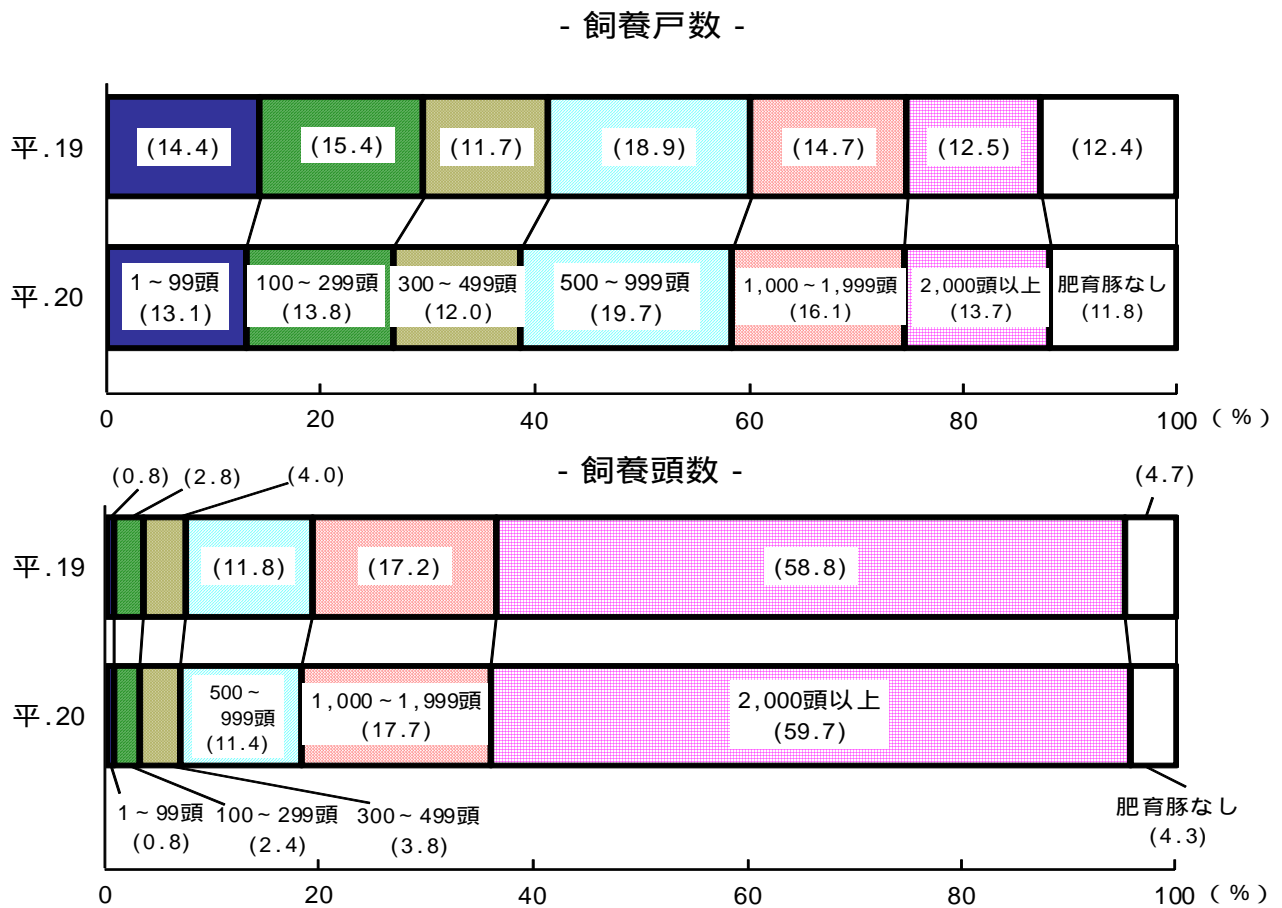


表13 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

区分	計	肥育豚飼養頭数規模								肥育豚なし	
		小計	1～99頭	100～299	300～499	500～999	1,000～1,999	2,000頭以上	うち、5,000頭以上		
実数(戸)	平. 19	7 360	6 450	1) 1 060	1 130	860	1 390	1 080	920	...	910
	20	7 040	6 210	922	969	844	1 390	1 130	962	562	829
	対前年比(%)	95.7	96.3	1) 87.0	85.8	98.1	100.0	104.6	104.6	...	91.1
構成比(%)	平. 19	100.0	87.6	1) 14.4	15.4	11.7	18.9	14.7	12.5	...	12.4
	20	100.0	88.2	13.1	13.8	12.0	19.7	16.1	13.7	8.0	11.8
	対前年比(%)
実数(千頭)	平. 19	9 709.0	9 258.0	1) 79.7	268.2	385.0	1 145.0	1 668.0	5 711.0	...	451.6
	20	9 695.0	9 278.0	73.3	233.7	365.2	1 106.0	1 712.0	5 788.0	4 633.0	416.5
	対前年比(%)	99.9	100.2	1) 92.0	87.1	94.9	96.6	102.6	101.3	...	92.2
構成比(%)	平. 19	100.0	95.4	1) 0.8	2.8	4.0	11.8	17.2	58.8	...	4.7
	20	100.0	95.7	0.8	2.4	3.8	11.4	17.7	59.7	47.8	4.3
	対前年比(%)

(4) 採卵鶏

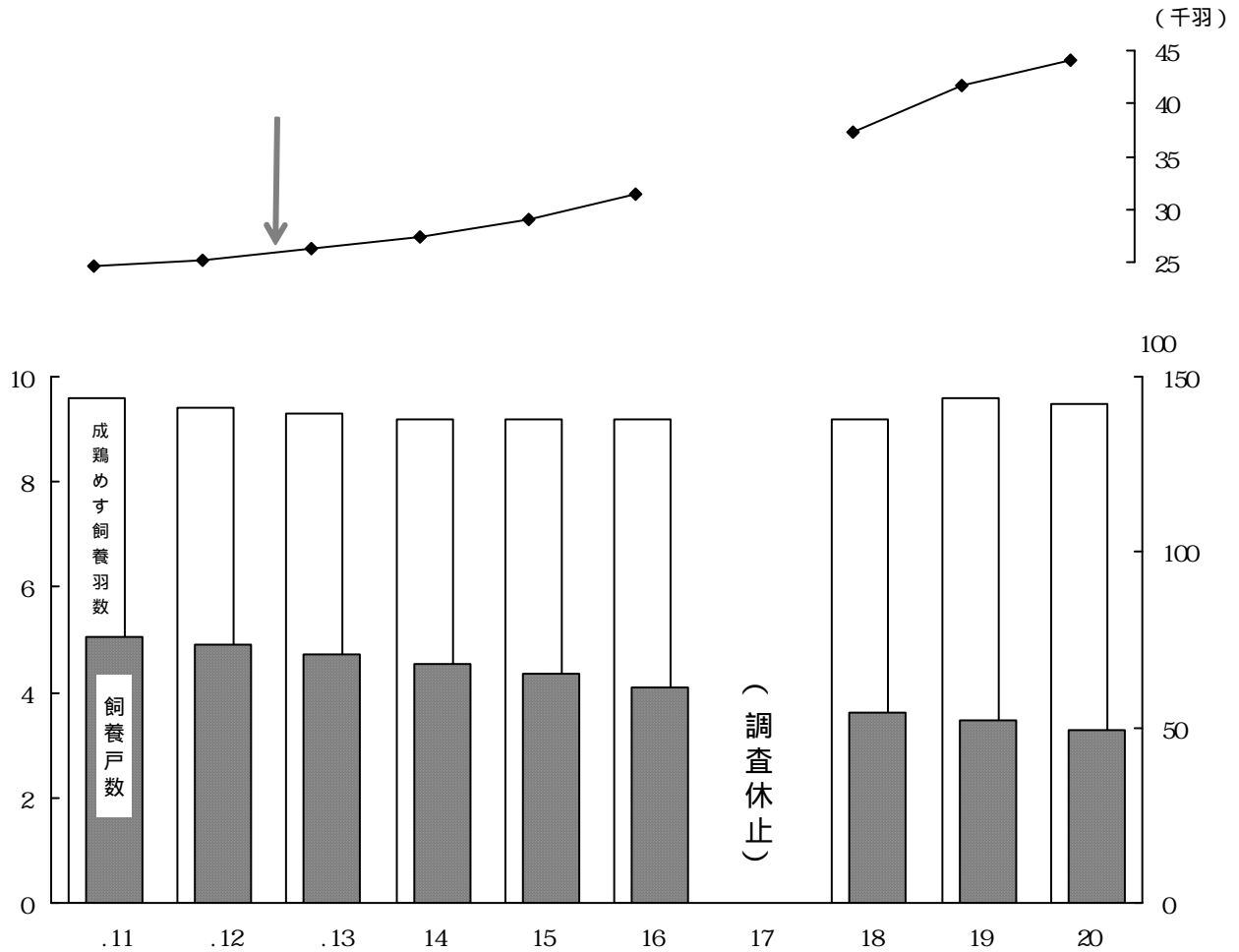
ア 飼養戸数・羽数

平成20年の全国の採卵鶏の飼養戸数（種鶏のみの飼養者及び成鶏めす羽数1千羽未満の飼養者を除く。以下同じ。）は3,300戸で、前年に比べて160戸（4.6%）減少した。

成鶏めすの飼養羽数は1億4,252万3千羽で、前年に比べて24万2千羽（0.2%）減少した。

この結果、1戸当たりの成鶏めす飼養羽数は、前年に比べ1,900羽増加し4万3,200羽となった。

図11 採卵鶏の飼養戸数・羽数の推移



注：平成17年は「2005年農林業センサス」実施年のため調査を休止した。

表14 採卵鶏の飼養戸数・羽数

区分	採卵鶏の飼養戸数	飼養羽数（千羽）			1戸当たり成鶏めす飼養羽数
		計	採卵鶏（種鶏を除く）	成鶏めす（6か月以上）	
戸数・羽数	戸				千羽
平・19	3 460	186 583	183 244	142 765	41.3
20	3 300	184 773	181 664	142 523	43.2
対前年比 (%)	95.4	99.0	99.1	99.8	-
構成比平・19	-	100.0	98.2	76.5	-
(%)	20	-	100.0	98.3	77.1

イ 採卵鶏の成鶏めす飼養羽数規模別飼養戸数・成鶏めす飼養羽数

飼養戸数を成鶏めす羽数規模別にみると、すべての階層で前年に比べ減少した。

成鶏めす飼養羽数は、「10万羽以上」の階層は、前年に比べ3.5%増加し、それ以外の階層では減少した。

なお、「10万羽以上」の階層で成鶏めす飼養羽数の6割以上を占めている。

図12 採卵鶏の成鶏めす飼養羽数規模別飼養戸数・成鶏めす飼養羽数割合の推移

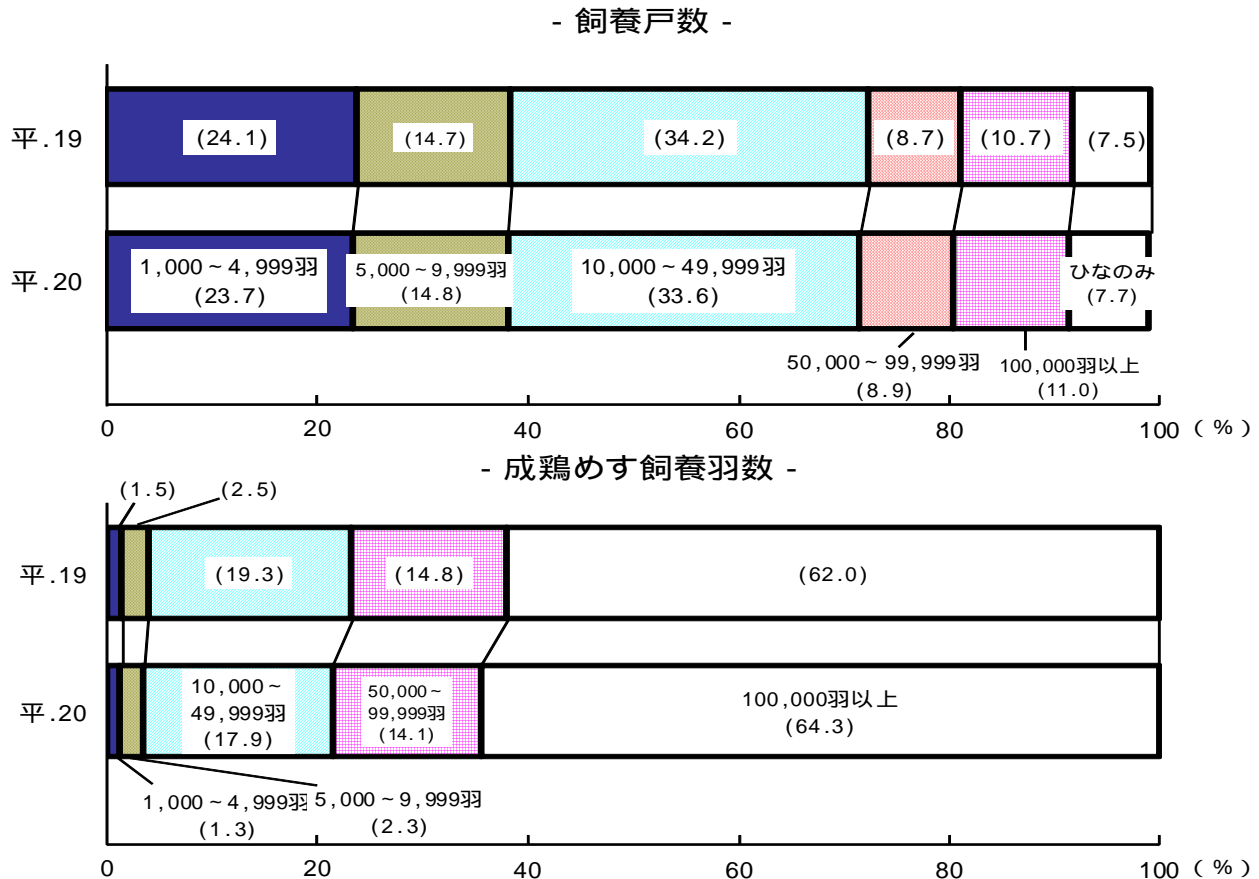


表15 採卵鶏の成鶏めす飼養羽数規模別飼養戸数・成鶏めす飼養羽数

区分	計	成鶏めす飼養羽数規模					ひなのみ	
		1000 ~ 4,999	5,000 ~ 9,999	10,000 ~ 49,999	50,000 ~ 99,999	100,000羽以上		
戸数	平. 19	3 420	825	503	1 170	299	365	255
	20	3 240	769	481	1 090	288	356	249
	対前年比 (%)	94.7	93.2	95.6	93.2	96.3	97.5	97.6
構成 (%)	平. 19	100.0	24.1	14.7	34.2	8.7	10.7	7.5
	20	100.0	23.7	14.8	33.6	8.9	11.0	7.7
羽数 (千羽)	平. 19	142 646	2 099	3 563	27 460	21 071	88 453	-
	20	142 300	1 899	3 296	25 517	20 045	91 543	-
	対前年比 (%)	99.8	90.5	92.5	92.9	95.1	103.5	-
構成 (%)	平. 19	100.0	1.5	2.5	19.3	14.8	62.0	-
	20	100.0	1.3	2.3	17.9	14.1	64.3	-

(5) 鶏ひなふ化羽数

ア ふ化羽数及び出荷羽数

(ア) 採卵用めすひな

平成19年（1月～12月）の全国の採卵用めすひなのふ化羽数は1億1,264万5千羽、出荷羽数は1億762万6千羽で、前年並みとなった。

(イ) プロイラー用ひな

平成19年（1月～12月）の全国のプロイラー用ひなのふ化羽数は6億9,168万7千羽、出荷羽数は6億7,443万6千羽で、前年に比べてそれぞれ0.5%、0.7%増加した。

図13 鶏ひなの出荷羽数の推移

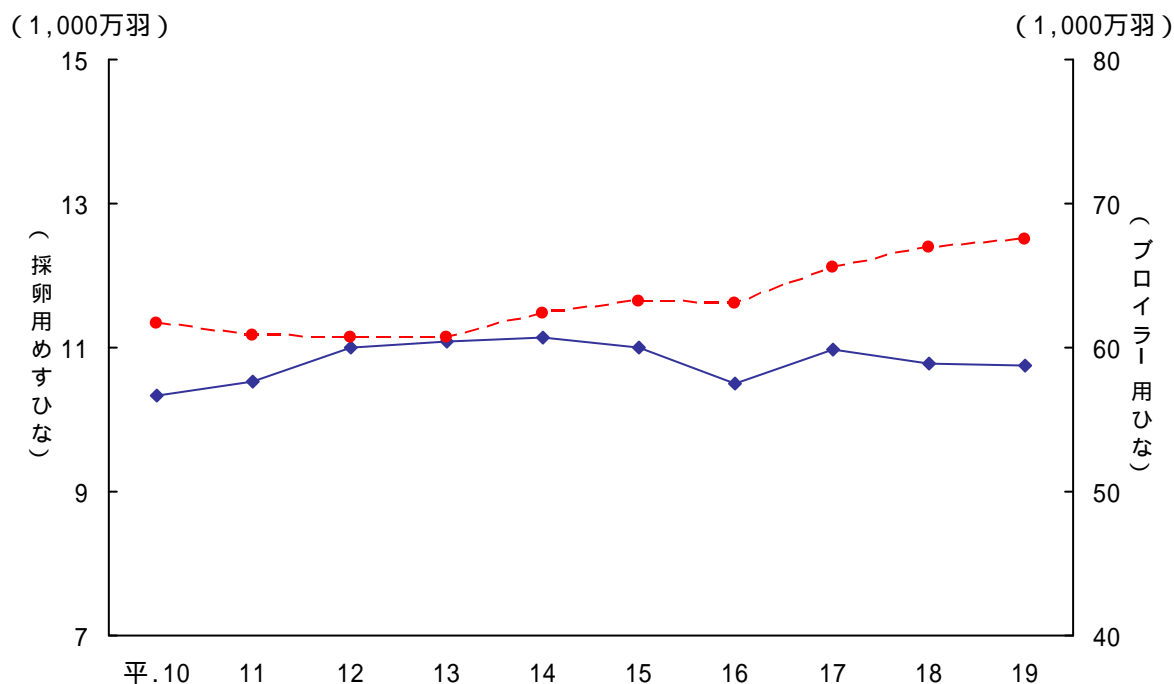


表16 鶏ひなのふ化羽数及び出荷羽数

単位：千羽

区分			採卵用めすひな		プロイラー用ひな	
			ふ化羽数	出荷羽数	ふ化羽数	出荷羽数
羽数	平.	18	112 728	107 679	688 197	669 601
		19	112 645	107 626	691 687	674 336
対前年比 (%)	平.	18	97.2	98.1	102.6	102.2
		19	99.9	100.0	100.5	100.7

イ 全国農業地域別え付け羽数

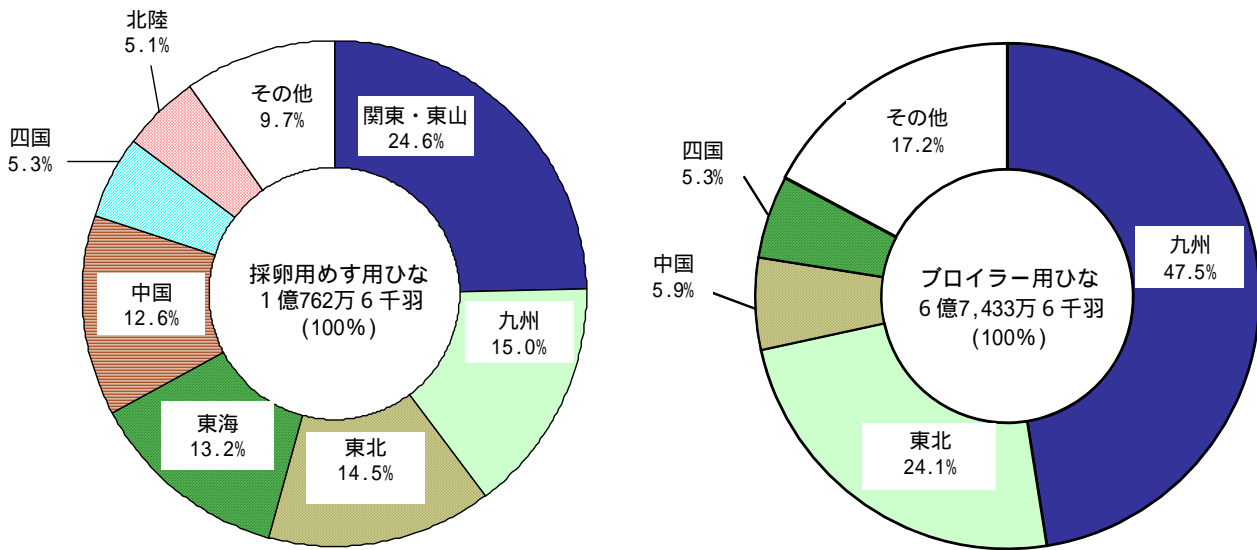
(ア) 採卵用めすひな

全国農業地域別にみると、中国、北海道、九州及び東北ではそれぞれ9.8%、1.6%、0.7%、0.1%増加したが、それ以外の地域では減少した。

(イ) プロイラー用ひな

全国農業地域別にみると、東海、近畿、四国ではそれぞれ9.4%、3.8%、3.2%減少したが、それ以外の地域では増加した。

図14 鶏ひなの全国農業地域別え付け羽数割合



注：え付け羽数の全国割合が5.0%未満の地域については「その他」とした。

表17 鶏ひなの全国農業地域別え付け羽数

単位：千羽

区分		計	北海道	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	
採卵用めすひな	羽数	平.18	107 679	4 996	15 551	5 631	26 938	14 676	4 711	12 364	5 835	16 036	941
		19	107 626	5 077	15 561	5 487	26 478	14 186	4 544	13 573	5 721	16 152	847
	対前年比 (%)	平.18	-	101.7	102.9	75.4	105.4	98.5	88.5	97.4	98.7	94.6	99.3
	19	-	101.6	100.1	97.4	98.3	96.7	96.5	109.8	98.0	100.7	90.0	
プロイラー用ひな	構成比 (%)	平.18	100.0	4.6	14.4	5.2	25.0	13.6	4.4	11.5	5.4	14.9	0.9
	19	100.0	4.7	14.5	5.1	24.6	13.2	4.2	12.6	5.3	15.0	0.8	
	羽数	平.18	669 601	30 490	159 449	5 609	32 014	21 628	24 162	39 729	37 072	316 173	3 275
	19	674 336	30 895	162 228	6 242	32 827	19 591	23 239	39 895	35 897	320 170	3 352	
プロイラー用ひな	対前年比 (%)	平.18	-	106.4	103.0	94.0	102.5	96.0	97.1	100.4	100.6	102.9	101.0
	19	-	101.3	101.7	111.3	102.5	90.6	96.2	100.4	96.8	101.3	102.4	
	構成比 (%)	平.18	100.0	4.6	23.8	0.8	4.8	3.2	3.6	5.9	5.5	47.2	0.5
	19	100.0	4.6	24.1	0.9	4.9	2.9	3.4	5.9	5.3	47.5	0.5	

注：え付け羽数とは、ふ化業者が出荷（自家育すう用を含む。）した初生ひなを、鶏飼養者（育すう業者を含む。）がえ付けした羽数をいう。